

## 2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年2月14日

上場会社名 株式会社かんなん丸 上場取引所 東  
 コード番号 7585 URL http://www.kannanmaru.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野々村 孝志  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長 (氏名) 宮永 一彦 TEL 048-815-6699  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年6月期第2四半期の業績 (2022年7月1日～2022年12月31日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	599	-	△202	-	△199	-	△212	-
2022年6月期第2四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第2四半期	△55.68	-
2022年6月期第2四半期	-	-

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	1,578	936	59.3
2022年6月期	1,772	1,171	66.1

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期 936百万円 2022年6月期 1,171百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	-	0.00	-	6.00	6.00
2023年6月期	-	0.00	-	-	-
2023年6月期(予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2023年6月期の配当予想につきましては、現時点では未定としております。

### 3. 2023年6月期の業績予想 (2022年7月1日～2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,296	117.5	△348	-	△347	-	△300	-	△78.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

当社は2022年9月1日付で連結子会社である株式会社しんしん丸を吸収合併いたしました。当合併により連結子会社がなくなることから、2023年6月期は個別決算による開示となります。

なお、対前期増減率に関しては、個別決算との比較を表示しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年6月期2Q	4,351,308株	2022年6月期	4,351,308株
② 期末自己株式数	2023年6月期2Q	539,761株	2022年6月期	539,761株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年6月期2Q	3,811,547株	2022年6月期2Q	3,811,556株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因等により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P2「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当社は2022年9月1日付で当社の完全子会社である株式会社しんしん丸を吸収合併したことに伴い、第1四半期累計期間においては期首から2ヵ月は連結決算でありましたが、当第2四半期累計期間の末日においては非連結決算へと移行しております。上記により当第2四半期累計期間より四半期連結財務諸表を作成していないため、比較分析は行っておりません。

当第2四半期累計期間における外食業界は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、経済活動への制限が緩和される中、お客様のご来店数は徐々に回復傾向の兆しは現れてきているものの、コロナ禍以前の状況には及ばず、ロシアのウクライナ侵攻に端を発する世界的な物価高騰による、仕入原価の上昇及び水道光熱費の増加、パート・アルバイトの時給アップ、従業員確保に係る採用費用の増加等、販売管理費の増加が顕著となっております。

また、コロナ禍におけるお客様の勤務スタイルや会食の変化、大人数によるご宴会の自粛、二次会利用の激減等による店内飲食需要の減少に伴い、売上回復は非常に厳しい状況で推移しております。

このような状況の中、当社が主力として運営しております居酒屋業態においては、コロナ禍においても飲食店でご飲食する素晴らしさを感じていただけるように、企業理念を具現化するための20項目を定め、スタッフ全員が一丸となってお客様に笑顔でお帰りいただくように注力しております。さらに当会計期間より導入しましたミステリーショッパーによるお客様の声を店舗の営業に活かすことによって一人でも多くのお客様にご来店いただけるお店づくりをしております。

また、前期に新たに業態変更した5店舗の業績への貢献を確かなものにし、店舗オペレーションの改善を通じて、店舗資源の効率化を図っております。

この結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は、大衆割烹「庄や」20店舗、「日本海庄や」4店舗、カラオケルーム「うたうんだ村」1店舗、大衆すし酒場「じんべえ太郎」5店舗、Italian Kitchen「VANSAN」2店舗の合計32店舗となっております。

上記の結果、当第2四半期累計期間の業績は売上高599,487千円、売上総利益は402,602千円、販売費及び一般管理費については604,634千円となり、営業損失は202,031千円となりました。

経常損失につきましては199,338千円、税引前四半期純損失208,616千円となり、四半期純損失212,219千円となりました。

なお、当社は、料理飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

### （2）財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における流動資産は833,914千円となり、前事業年度末に比べて249,908千円の減少となりました。これは主に、現金及び預金が191,181千円減少したことによるものであります。

また、固定資産は744,916千円となり、前事業年度末に比べて55,846千円の増加となりました。これは主に、建物等の有形固定資産が86,960千円増加、差入保証金が34,886千円減少したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における流動負債は237,883千円となり、前事業年度末に比べて61,363千円の増加となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金の増加13,887千円によるものであります。

また、固定負債は404,851千円となり、前事業年度末に比べて20,057千円の減少となりました。これは主に、長期借入金の減少13,333千円によるものであります。

当第2四半期会計期間末における純資産は936,095千円となり、前事業年度末に比べて235,369千円の減少となりました。これは、四半期純損失の計上及び配当金支払の結果、利益剰余金が234,110千円減少したことによるものであります。

#### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、418,005千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動の結果、使用した資金は183,778千円となりました。

これは主に、税引前四半期純損失208,616千円、減価償却費23,121千円、売上債権の増減による支出10,661千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動の結果、使用した資金は2,626千円となりました。

これは主に、差入保証金の回収による収入35,031千円、定期預金の預入による支出30,000千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において財務活動の結果、使用した資金は59,899千円となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出30,696千円、配当金の支払額22,529千円によるものであります。

### （3）継続企業の前提に関する重要事象等

当期に入り当社は、新型コロナウイルス感染症第7波及び第8波による感染者数の大幅な増加によりお客様ご利用状況の一時的な著しい変動に向き合っております。感染者数の減少とともにご来店のお客様の漸増傾向による売上高の回復傾向がみられましたが、感染者数増に起因する低迷期間で生じた損失の改善には至らず、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が継続しております。

このような状況を解消するために、当社は、事業の収益改善と資金繰りの安定化を目的とした事業再構築の二本柱を改善策として実施してまいります。

一つ目には、居酒屋業態においては、自社ブランドへの業態転換と新規業態Italian Kitchen VANSANをオープンしております。具体的には、居酒屋業態においては既存ブランドである庄や・日本海庄やの活性化と自社ブランドであるじんべえ太郎への業態転換を3店舗、単一事業ポートフォリオを見直し、VANSAN業態を2店舗進めております。当社のDX化や店舗設備においても補助金を活用しながら導入・更新を進め、これらの対応策と既存店舗の活性化により全体の売上高の回復とともに店舗収益改善と事業の効率化を図り、営業損益の改善を行ってまいります。加えて、当期に入り店舗のサービス品質・お客様満足度の向上、QSSCAの徹底と向上を目的にミステリーショッパーを導入し、その実績結果を踏まえ、PDCAサイクルを回す体制を構築しております。

二つ目は、資金繰りの安定化のため、政府系金融機関並びに民間金融機関から新型コロナウイルス感染症に関する特別貸付の長期低利融資を活用し、運転資金の維持確保のため一定額のキャッシュ水準の積み増しと維持に努めております。

当社は、当第2四半期会計期間末現在で、現預金残高758,179千円、純資産残高936,095千円を有しており、現時点では安定的な財政状態を維持しております。そのため、これを基盤として上記対応策を進めていくことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

### （4）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年6月期の通期業績予想につきましては、2022年8月12日に公表しました業績予想を修正いたしました。詳しくは2023年2月14日に公表しました「第2四半期業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	949,360	758,179
売掛金	25,323	39,732
原材料	9,898	13,856
前払費用	19,283	19,574
その他	79,958	2,571
流動資産合計	1,083,822	833,914
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	143,337	230,297
土地	213,034	213,034
その他（純額）	21,239	25,662
有形固定資産合計	377,612	468,994
無形固定資産	13,165	13,039
投資その他の資産		
差入保証金	232,910	198,024
その他	73,831	71,060
貸倒引当金	△8,449	△6,201
投資その他の資産合計	298,293	262,882
固定資産合計	689,070	744,916
資産合計	1,772,893	1,578,830
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	31,347	41,888
1年内返済予定の長期借入金	46,664	60,551
未払法人税等	4,910	4,243
賞与引当金	700	900
その他	92,895	130,300
流動負債合計	176,519	237,883
固定負債		
長期借入金	316,666	303,333
資産除去債務	93,043	93,649
その他	15,199	7,869
固定負債合計	424,909	404,851
負債合計	601,429	642,735
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	313,600	313,600
利益剰余金	1,423,551	1,189,440
自己株式	△622,129	△622,129
株主資本合計	1,165,022	930,911
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,442	5,184
評価・換算差額等合計	6,442	5,184
純資産合計	1,171,464	936,095
負債純資産合計	1,772,893	1,578,830

（2）四半期損益計算書  
（第2四半期累計期間）

（単位：千円）

	当第2四半期累計期間 （自 2022年7月1日 至 2022年12月31日）
売上高	599,487
売上原価	196,885
売上総利益	402,602
販売費及び一般管理費	604,634
営業損失（△）	△202,031
営業外収益	
受取利息	11
受取家賃	1,618
貸倒引当金戻入額	555
その他	541
営業外収益合計	2,726
営業外費用	
支払利息	33
営業外費用合計	33
経常損失（△）	△199,338
特別損失	
減損損失	1,451
貸倒引当金繰入額	7,826
特別損失合計	9,277
税引前四半期純損失（△）	△208,616
法人税、住民税及び事業税	4,247
法人税等調整額	△643
法人税等合計	3,603
四半期純損失（△）	△212,219

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純損失（△）	△208,616
減価償却費	23,121
減損損失	1,451
長期前払費用償却額	1,347
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△555
受取利息及び受取配当金	△11
支払利息	33
売上債権の増減額（△は増加）	△10,661
棚卸資産の増減額（△は増加）	△2,255
仕入債務の増減額（△は減少）	10,541
その他	6,805
小計	△178,800
利息及び配当金の受取額	11
利息の支払額	△28
法人税等の支払額	△4,960
営業活動によるキャッシュ・フロー	△183,778
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
定期預金の預入による支出	△30,000
有形固定資産の取得による支出	△6,655
投資有価証券の売却による収入	85
貸付金の回収による収入	116
差入保証金の回収による収入	35,031
その他	△1,204
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,626
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入金の返済による支出	△30,696
配当金の支払額	△22,529
その他	△6,673
財務活動によるキャッシュ・フロー	△59,899
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△246,303
現金及び現金同等物の期首残高	639,190
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	25,119
現金及び現金同等物の四半期末残高	418,005



（4）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

（セグメント情報等）

当社は、料理飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。